

福島県「ふくしまの畜産」分野における地場産業成長プランの概要

1. 支援する分野

牛肉、馬肉

2. 支援する地域及び核となる事業者

○支援する地域

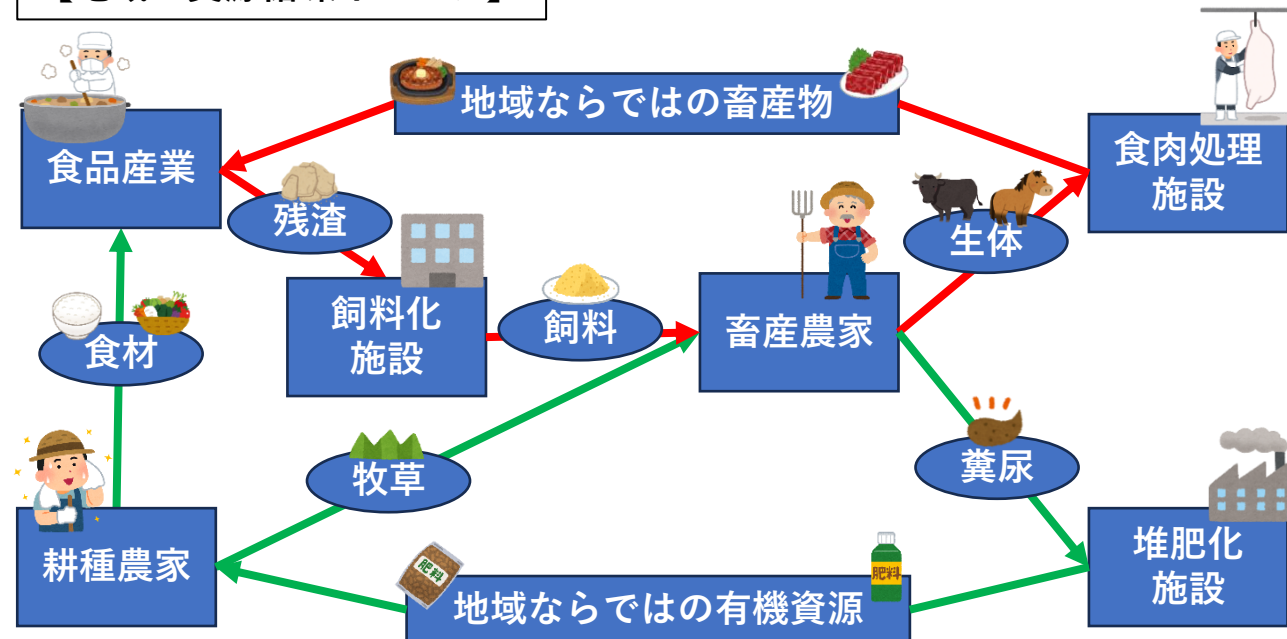
牛肉) 県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわき

馬肉) 県北、県中、県南、会津、相双

○核となる事業者

(株)福島県食肉流通センター、
会津若松食肉事業協同組合、(株)TOHOピクス、
JA全農くみあい飼料株式会社、JA全農福島

【地域の資源循環イメージ】



3. 目指す姿（目標）

（1）現状の整理

- 飼養戸数及び頭数の減少、風評による価格の低下、食肉処理施設の老朽化など、構造的な課題を有している
- 海外での和牛需要や訪日外国人のインバウンド消費が高まっている

（2）目指すべき目標

- 付加価値増加額
39.8億円（R12）

4. 勝ち筋

- 本県ならではの地域資源である日本酒の酒粕等の未利用資源を効率的に飼料化する「循環型畜産モデル」を確立し、牛肉や馬肉のブランド力の向上及び畜産業における環境負荷の低減等のG Xの両立を図る。
- 人材の確保・育成と、食肉処理機能の強化、観光・飲食業等との緊密な連携を通じて地域産業全体の持続的な活性化を推進する。

5. 政策手段

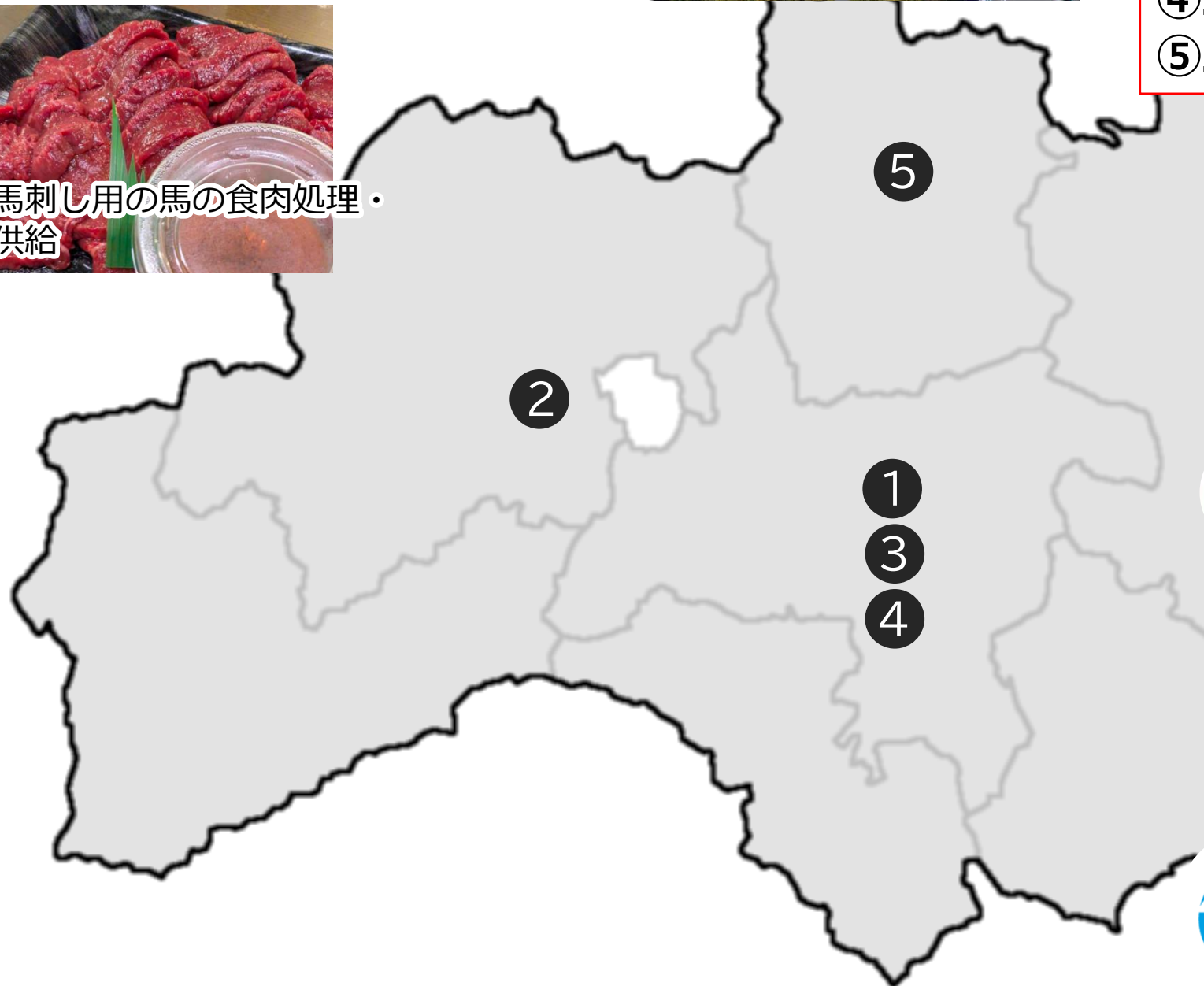
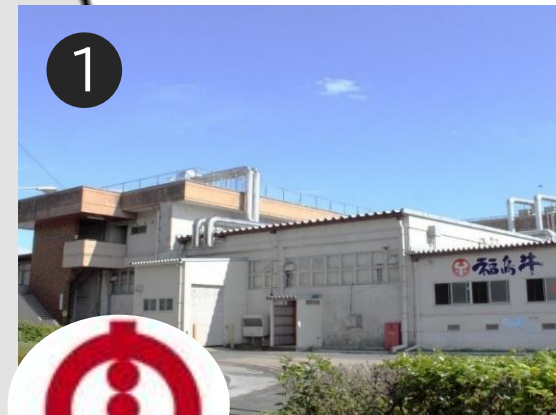
- 取り組みやすい環境づくり
- 地域一体となった和牛改良体制の推進と種雄牛造成
- 食肉生産に必要な施設改修及び技能向上
- 未利用資源の効率的な飼料化
- 気候変動等に対応した自給飼料増産
- 堆肥加工施設等の整備
- マーケットインの最適化

福島県 「ふくしまの畜産」分野における地場産業成長プランの概要



核となる事業者

- ①株式会社福島県食肉流通センター
- ②会津若松食肉事業協同組合
- ③株式会社TOHOピクス
- ④JA全農くみあい飼料株式会社
- ⑤JA全農福島



ブランド肉の処理・供給拠点



日本酒の副産物である酒粕の飼料化